

公益財団法人マツダ財団 平成 29(2017)年度 事業計画及び収支予算 (平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで)

◆マツダ財団の設立趣旨に沿った社会貢献活動を行い、マツダ財団の存在価値を高める。

◆「14 中期事業計画」に沿った事業変革を着実に進める。

当事業年度は、科学技術振興分野では、萌芽的研究および若手研究者の育成のための支援を強化し、青少年健全育成分野では、市民活動支援および市民活動の活性化に寄与する実践的な研究に対する支援を強化する。これらの支援強化を含め、その活動に際しては、先見性・独創性を常に念頭に置き助成効果をより向上させる。また、財団運営面では、ガバナンスの強化および情報公開を積極的に行うとともに、一層の経費削減、効率的な財団運営に努める。さらに、「中期事業計画」に沿った事業変革を着実に進め、先進的・個性的な事業を提供し続けることによって、「存在感のある財団」を目指す。

事業費総額は、超低金利の続く厳しい資金環境下、対前年度予算 280 万円減の 6,546 万円とする。

I. 科学技術振興関係事業

1. 研究助成

<マツダ研究助成>

機械、電子・情報、材料の 3 分野について、先進性・独創性に優れた基礎研究および応用研究に対し助成を行う。また、若手研究者、萌芽的研究、循環・省資源への重点助成とする。

- | | |
|----------------|------------------------------|
| (1) 助成対象研究分野 | ① 機械 ② 電子・情報 ③ 化学系材料 ④ 物理系材料 |
| (2) 助成金総額・件数 | 3, 100 万円、31 件 |
| (3) 1 件当たり助成金額 | 100 万円 |
| (4) 助成期間 | 1 年または 2 年 |
| (5) 募集方法・募集期間 | 公募、2017 年 4 月下旬～同年 5 月 31 日 |
| (6) 選考方法 | 選考委員会による審査・選考 |

<マツダ研究助成奨励賞>

マツダ研究助成対象の中から特に優れた研究に対して授与する。

- | | |
|---------------|-------------------|
| (1) 副賞(追加助成金) | 50 万円/件 |
| (2) 助成金総額・件数 | 200 万円、4 件 |

2. 事業助成

「科学わくわくプロジェクト」の趣旨に沿った科学体験事業への助成を行う。

- | | |
|----------------|---|
| (1) 助成対象分野 | 中国地方で開催される小中高の生徒を対象とした「科学体験」に関する事業・研究会等を支援する。 |
| (2) 助成対象地域 | 中国地方 |
| (3) 助成金総額・件数 | 200 万円、10～15 件程度 |
| (4) 1 件当たり支援金額 | 10～20 万円 |
| (5) 募集方法・募集期間 | 公募、2017 年 4 月上旬～同年 5 月 8 日 |

3. 科学わくわくプロジェクト

科学にわくわくする子どもの心を育てるための「科学わくわくプロジェクト」(わくプロ)事業を実施する。今年度は、以下の2事業を実施する。

(1) 「サイエンスレクチャー」～主に中学生・高校生を対象とし、理科好きの生徒たちに、理科の真の面白さを伝える事を目的に、「出前講義」を実施する。

- ・実施時期：2017年5月以降
- ・実施場所：要請のある中・高等学校(私学・広島市教育委員会との連携、5～6校)
- ・参加者：30～40人/講義
- ・内容：单元内指導
- ・予算額：20万円

(2) 「ジュニア科学塾」～中学生を対象に、科学に関する幅広い内容を発展的、継続的に学習する演習講座。実験・観察実習を行うとともに、広島大学等の最先端の設備を活用して、ハイレベルな科学体験の場を提供する。

- ・実施時期：2017年4月以降
- ・実施場所：広島大学他
- ・募集方法：公募
- ・テーマ：未定
- ・講師：比治山大学 林 武広教授他
- ・予算額：30万円

(3) 「小学校の先生のための理科ひろば」～小学校の先生に対して、子ども達が強く関心を示すような楽しくなる理科の実験授業について、当プロジェクトの研究員等が学校に出向いて模擬授業を行い提案する。

- ・実施時期：2017年5月以降
- ・実施場所：要請のある小学校(広島市教育委員会との連携、10校程度)
- ・予算額：30万円

(4) 広報活動の充実

- ・内容：ホームページ新規立上げ並びに維持、他
- ・予算額：20万円

(5) 予算総額：100万円

4. 調査研究

- ・新規事業(大学等との連携事業)の検討。事業内容、提携先等検討。
- ・研究助成・事業助成について、応募者アンケート調査・分析および有識者ヒアリング調査。
- ・予算額 100万円

5. 経費

561万円

科学技術振興関係事業費 計 4,261万円

Ⅱ. 青少年健全育成関係事業

1. 研究助成

次世代を担う青少年の健全育成に寄与する研究に対する助成を行う。市民活動との連携強化を図り、市民活動の活性化に寄与する実践的な研究に注力する。

- | | |
|---------------|---|
| (1) 助成対象分野 | ・青少年をとりまく環境 ・コミュニティづくり
・ボランティア育成 ・科学体験 |
| (2) 助成金総額・件数 | 400万円、5～6件程度 |
| (3) 助成期間 | 1年または2年 |
| (4) 募集方法・募集期間 | 公募、2017年4月下旬～同年6月30日 |
| (5) 選考方法 | 選考委員会による審査・選考 |

2. 市民活動支援

青少年健全育成のための地域に密着した活動を支援する。今年度の応募は110件で、活動への意欲・斬新性、社会的要請度、支援効果等多方面から審議され、32件が決定された。

- | | |
|---------------|---|
| (1) 助成対象分野 | ①自然とのふれあい ②ボランティア育成 ③地域連帯
④エコ ⑤国際交流・協力 ⑥科学体験・ものづくり |
| (2) 支援対象地域 | 広島県、山口県 |
| (3) 支援金総額・件数 | 800万円、32件 |
| (4) 1件当たり支援金額 | 10～50万円 |
| (5) 支援期間 | 1年 |
| (6) 募集方法・募集期間 | 公募、2016年10月14日～2017年1月13日 |
| (7) 選考方法 | 選考委員会による審査・選考 |

3. 感動塾・みちくさ

子どもたちが自然に触れ、体験や実験などを通じて、科学に対する興味を深め、自分たちで創意工夫することにより科学を学ぶ心を養うことを目的に、3施設で実施する。また20周年にあたる本年は、記念事業の実施を予定しており、その予算として50万円を充当する。

- | | |
|-----------|--|
| (1) 共同事業 | (公財)広島市文化財団との共催 |
| (2) 支援・人数 | 広島市およびその周辺在住の小学校3年～6年・約150人 |
| (3) 期間 | 2017年8月～10月 2泊3日 |
| (4) 場所 | (公財)広島市文化財団の青少年活動施設
・広島市青少年野外活動センター
・広島市三滝少年自然の家
・広島市似島臨海少年自然の家 |
| (5) 募集方法 | 公募(応募多数の場合は抽選) |
| (6) 予算額 | 180万円 |

4. スタートラインプロジェクト

NPO法人ピピオ子どもセンターと連携して、被虐待児等の自立を支援する事業を実施する。

本年度は、以下の3プログラムを実施する。

(1) 被虐待児等の成長を支援するプログラム

- ・被害回復 癒しのプログラムとの連携、カウンセリングの充実
- ・生活習慣の改善 日記実践、コミュニケーション能力の向上
- ・自己肯定感の涵養 座学(家庭教師)
体験を通じた「学習」の支援(スポーツ大会、音楽活動、野外活動、マナー講座、企業体験等)
- ・自立への準備 就職活動、資格取得等

(2) スタッフの能力開発を支援するプログラム

- ・講座・セミナー・研究会等の開催(一般にも開放)
- ・スタッフ人材育成モデルの研究、スタッフ間のコミュニケーションの活性化
- ・他機関の視察、他機関のスタッフとの交流

(3) その他(活動基盤の充実)

- ・広報活動の充実 ちらし、パンフレット、報告書等の作成、広報誌・ホームページの充実
- ・普及活動 調査・分析、活動結果の体系的整理等を通じて、知見の普及・社会還元を図る。

(4) 予算総額 100万円

5. 若者×ツナグバ(新規事業)

若者が希望を獲得するための活動支援を、市民活動団体等との緩やかなネットワーク型の連携により実施する。若者一人ひとりが、社会情勢を正しく認識したうえで、多様な考え方から自分が納得のできる生き方を見つけ、その潜在能力を高め、選択肢を増やし、希望につなげていくことを目的とし、希望の4柱(行動・対象・手段・情熱)を獲得するための「対話」「表現活動」「居場所づくり」等の活動を支援する。

本年度は、以下の3プログラムを実施する。

(1) 「ワカモノ×コドモ自然学校プロジェクト」 予算額：50万円

主担当：NPO法人ほしはら山のがっこう(広島県三次市)

ワカモノが自分たち、そしてコドモを対象とした自然体験企画&実行を通して、仲間づくりと社会貢献、そして新しい自分と出会うプロジェクト。

予算額：50万円

(2) 「Folks Tea Booth 自分の手で居場所をつくろう！」

主担当：NPO法人三次おやこ劇場 KADOYA(広島県三次市)

10代後半の子どもと若者が、自由に生き方を選択できにくい現状を解決するために、学校・職場・自宅以外で気軽にふらりといつでも立ち寄ることができ、本音で語り合え、自由を感じる居場所、オープンカフェ風「Folks Tea Booth」を若者自身の手で作る。

予算額：50万円

(3) 「青少年の居場所づくり」

主担当：府中町地域活動青年団体「志楽蝶」(広島県安芸郡)

